

常陸太田市の文化財

外出自粛で家にこもっていることに疲れてしまったら、気晴らしに外へ出てみませんか？

らいこういん
来迎院の文化財

来迎院は常陸太田市大里町にある天台宗のお寺で、正式には「光明山安養寺来迎院」といいます。

この場所には、もともと真言宗のお寺「貴富山阿弥陀院安楽寺」がありましたが、当時の住職が仏教の決まりをやぶって追い払われてしまい、安楽寺は廃れてしまいました。天和3年（1683）、安楽寺の跡地に磯浜村（現在の大洗町磯浜町）にあった天台宗のお寺「普賢院」を移して、その後元禄5年（1692）に現在の名前になりました。本尊※1は木造阿弥陀如来像で、本堂の中に納められています。今は住職が住んでいないお寺ですが、多くの貴重な文化財が残されています。

※1 本尊…お寺などで、信仰の対象となる仏像のこと。

来迎院のこれまで



阿弥陀堂本堂【県指定】

江戸時代中期の享保3年（1718）に建てられた、かやぶき屋根のお堂です。1面が3間（5・46メートル）幅の、上から見ると正方形の造りになっています。お堂の中央に本尊である阿弥陀如来像が置かれていることから、「阿弥陀堂」と呼ばれます。茨城県内にある近世の阿弥陀堂建築を知るうえで貴重な例ということで、昭和44年（1969）3月20日に茨城県の指定文化財になりました。



▲阿弥陀堂本堂

阿弥陀堂楼門【県指定】

「楼門」はお寺の入口にある門のことです。正面3間（5・46メートル）横2間（3・64メートル）出入口は1カ所、2階部分があります。本堂と同じくかやぶき屋根です。門の両側に仁王像が納められていることから、「仁王門」とも呼ばれています。宝暦10年（1760）に建てられました。



▲阿弥陀堂楼門

文化財用語解説 阿弥陀如来

阿弥陀如来には「無量寿如来」と「無量光如来」という別名があり、限らない命（無量寿）と限りない光（無量光）で人々を救い続けるとされている仏様です。「南無阿弥陀仏」と唱えた人を極楽浄土へ導いてくれます。



木造阿弥陀如来坐像【県指定】

高さ約155.6センチの一本造りで、表面に少し金箔が残っていることから、造られた当時は表面が金箔で仕上げられていたと思われます。細かく表現された螺髪(仏の髪の毛)や彫眼(目に水晶などを埋め込まず、彫りだけで表現した技法)から、造られた時期は平

知っておきたい文化財 仏様のお顔

仏様は人間を超えた存在です。仏像のお顔をよく見てみると、私たちと違う特徴がたくさんあります。

肉髻

あたまにくもあ 頭の肉が盛り上がっている

螺髪(髪の毛)

ひとつぶ いっぽん 一粒一粒は一本の毛が巻かれたもの

白毫(おでこ)

一本(4.5粒?)の長い毛が丸まっている



安時代末期と考えられています。

木造如来形坐像【市指定】

手の部分が無くなっていますが、脚の組み方などから、阿弥陀如来である可能性が高いことがわかりました。

高さ85.9センチの仏像で、低い肉髻(頭の上の一段高くなっている部分)や細かい螺髪(髪の毛)の表現などに定朝様の特徴があります。寄木造りの矧ぎ目が外れてバラバラになっていましたが、



▲木造如来形坐像



▲木造阿弥陀如来坐像

令和2年度に修復され、元の美しい姿を取り戻すことができました。

アクセス 大里ふれあい広場(大里町4401)の近く(P)



本堂の中は普段見れないから、毎年10月に開催される集中曝涼に行こう!



文化財だいすき ユウコさん

● 新型コロナウイルスを広めないために

● 新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、次のことを守りましょう。

● 熱が出ている、倦怠感があるなど、少しでも体調が悪いときは無理に出かけない。

● お友だちなどを誘って、大人数で出かけるのを避けよう。

● 一緒に行った人とあまりおしゃべりしない。

● (ほかの見学者がいた場合) 人との間隔をあけて見学する。



● 文化財は地域の貴重なお宝です。マナーを守って見学しましょう。

● 文化財をよごしたり、こわしたりしないようにしましょう。

● 所有者や管理者、近所の方々の迷惑にならないようにしましょう。

● 写真や動画を撮る前に、撮影してもよいか確認しましょう。



ユウコさんのおやくそく 文化財見学のマナー